

保育中、絵本を 語ってあげるには どの時間帯が よいのでしょうか



「いつでも」「どこでも」「だれとでも」楽しめるのが絵本ですから、いつでもよいのです。「朝の子ども、昼の子ども、帰る時の子どもの気持ちや行動は大きく揺れ動くので、子どもの変化に合わせた援助が必要」「緊張感みなぎる朝、行動力あふれる昼、調子に乗りやすい午後、気がゆるむ夕方、子どもの1日は大きく波打って展開する」ので、

- ・集中して絵本を楽しみたい時には、午前中の中・後半くらい。
 - ・リラックスしてワイワイ楽しみたい時には、午後が向いているかもしれません。
- 逆に、「お話タイム」を決めて語る方法もあります。降園前の30分間を充実させようと、いつも早めに降園の用意をして、実行している保育者もいます。ただ、いつでも、その時々で、子どもの状態をしっかりと感じ取り、どの場面でも子どもの声をよく聞いて、ねがいを持って絵本を手にしたいです。

(第6章 保育絵本がわかるQ&A より抜粋)

いつでもそばに 保育絵本の楽しみ

阿部 恵・著

A5判/296頁/定価：本体1,300円+税

保育絵本を使って 保育の幅を広げるヒントが満載

保育絵本で子どもが育ち、保育絵本でいきいき保育が実現できるよう、本書を大いに活用ください。



キンダーブックの
フレール館